

【社会科学】

近年、政府が進めている社会保障とその財源に関する改革の動向について述べた次の記述ア～オのうちには妥当なものが二つあるが、それらはどれか。

- ア. 子ども・子育て施策では、待機児童が特に3歳以上に多いことから、その受入体制の拡充を進めており、また、20代後半から40代前半の女性の就業率を50%まで上昇させる目標を掲げて女性の就業支援を行っている。
- イ. 年金分野では、パートなど短時間労働者に対する厚生年金の適用を目指しており、また、将来の無年金者を抑制していく観点から、国民年金を受給するのに必要な加入期間を短縮する改革案が策定された。
- ウ. 医療・介護分野では、看護・介護サービスの中心を在宅から施設へ移行する改革を進めており、また、国民健康保険の財政運営を地域の実情に合わせたものにするため、運営主体を都道府県単位から市町村単位に移行した。
- エ. 貧困・格差対策では、第1のセーフティネットである雇用保険を受給できない失業者に対して、第2のセーフティネットである生活保護の給付を充実させるなど、就労支援よりも生活支援を中心とした改革を進めている。
- オ. 高齢化に伴い社会保障給付が増加する中、財源の確保が課題となっている。消費税は税収が安定的で、かつ負担が勤労世代に偏らないことから、社会保障・税の一体改革では、消費税を社会保障の財源とすることが議論された。

- 1. ア, ウ
- 2. ア, エ
- 3. イ, エ
- 4. イ, オ
- 5. ウ, オ

〔正答 4〕